

# じゅこう

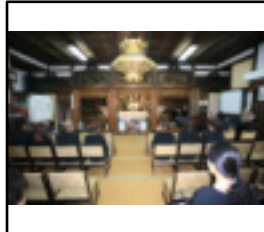
第5号  
(通算345号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

## 盂蘭盆会 厳修

八月十五日。数日前より超大型の台風十号が直撃するかもしれないとの予報が出ていましたので、総代さんと相談し、今年は午前中の初盆会だけの法要となりました。過ぎ去ってみればできたかもしれませんが、ないという思いはありますが、お参りの方やご講師さんの道中に何かあってはいけないという思いから、これで良かったと考えています。

亡くなられた方のご法名を讀み上げ、おつとめをし、住職がご法話をさせていただきました。仏説盂蘭盆経に説かれている目連尊者の故事を説明しつつ、よくよく振り返ってみれば、私のしている行いが、実は餓鬼道に落ちていく姿であり、そんな私をほっておけないからこそ阿弥陀さまがお願いに出遇って欲しいということが故人の願いであったというお話してありました。



先月のじめこうに書くスペースが無く、お伝えできていませんでしたが、七月中旬、ついに本堂にエアコンが付きました。

近年の酷暑続きで特に七月のこども会と八月の盂蘭盆会では熱中症の心配を常にしています。

### 本堂にエアコンが付きました

四月に行われた記念法要で、ご寄付をいただいたものの中に夏物の打敷がありました。打敷とはお内陣の卓に掛ける三角形の布のことです。以前からは前卓と上卓の二枚しかありませんでしたが、両側の脇卓にも同じ柄で揃えていただくことができました。記念法要の四月は冬の装いでした

### 夏物打敷初披露

から、更衣をして最初の法要である、この度の盂蘭盆会で初めてのご披露となりました。このように同じ柄の打敷で飾られたお内陣を見渡すと、本堂に引き締まった立派なお荘厳です。九月の彼岸会にも使わせていただきます。ぜひお参りをいただいで、ご覧になつてください。



少し見にくいですが

左右両側の打敷です

おりましたが、ようやく形にすることができました。外陣南北の壁に一台ずつ取り付けました。扇風機と組み合わせることにより、お参りの方々は快適に過ごしていただいております。



私たちのちかい

一、自分の殻に

閉じこもることなく

穏やかな顔と

優しい言葉を

大切にします

微笑み語りかける

仏さまのように

# 御文章に聞く(第3回)

# 仏教語辞典



## 青い目

如来の身体的特徴の一つで、青蓮華のように青い目をしているが、これは清浄で、ありのままを受け入れ慈しむ、仏さまのこころをあらわしている。

『気になる仏教語辞典』  
著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。

わかりやすくお伝えをしたいと思います。前回はいきなり音便や連声などという難しい話をしてしまいました。申し訳ありません。

今回は、御文章を拝読する際には、少し節を付けて読みますので、句切りの表記と合わせて、拝読の方法をお伝えしたいと思います。さて、句切りの表記と言いましたが、通常文章を書くときには、適切な位置で句読点を入れることによって読みやすくなり、また意味も間違えなく伝えることができます。御文章でも同じように、句読点に変わる表記が大切、中切、高切という句切りの表記です。  
大切：**字字字**、(読点のような表記です)

(例) 弥陀に帰命すれば、不可思議の大切点では、教文字手前で心持ち延ばし下げ(引かないところもあります)、最後の文字を少し低く(半音程度)読み終わってから、

息を継いで次を読みます。大切は句点のような意味合いです。一つの文章の最後に大切があり、その次の大切までを一息で読むことが基本となります。

中切：**字字字**・(中点のような表記です)

(例) そのゆえは・もろもろの雑行を中切点では、二字または三字前から、次第に低く下がり(二音半下がる)、息を切らずに次を読みます。中切は読点のような意味がありますので、切りどころを間違えうと意味が変わってしまうこともあります。息が足りなくなれば、中切で息継ぎ(息を盗む)こともあります。

高切：**字字字**、(大切が左端に来ます)

(例) されば、人間のはかなきことは高切点では、声を高めに止めて、息を切らずに次を読みます。高切は感嘆符のような意味があります。これから大事なことを言いますよ、といったところでしょうか。

# 編集後記

今月も「じゅこつ」をお届け致します。八月十五日、盂蘭盆会の中止は結果的に見ればできたかと思いますが、万が一のことを考え、これで良かったのだと、自分に言い聞かせております。ご予定をいただいていた方々には大変申し訳ありませんでした。難しい判断を迫られる、これもまた住職の責務なのだ、改めて良い経験になりました。  
ただ、初盆会で披露ができました、夏の打敷は本当に素晴らしいものです。エアコンもそうですが、少しずつ、より良い浄覚寺にして行ければと思っております。また、お祝いに頂戴したもう一つの記念品である夏用の色衣はこの時期のご法要やお葬儀などで使わせていただいております。次回九月の彼岸会でご覧になつていただけるかと思えます。どうぞ奮ってご参拝いただきますよう、お願い申し上げます。  
(釋法道)

# 行事案内

日時・九月二十三日(祝) 十四時

行事・秋季彼岸会

法話・山上正尊先生 本願寺派布教使(大阪)

場所・長原 浄覚寺

(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)



十月十九日(土) 十四時・十九時

永代経法要 法話 小村賢昭先生